



関空島

WEATHER REPORT

7 月号
2023 年

ご利用の前に
かんくうじまウェザーレポート
関空島 WEATHER REPORT の内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器及びその設置場所等の略語がでています。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の 6 月の気象

天気概況

梅雨前線の影響で雨の降る日が多くなりましたが、高気圧に覆われて晴れの日もありました。

月降水量は 6 月としては最近 20 年間で最も多くなりました。また、6 月 2 日の日降水量及び日最大 1 時間降水量、日最大 10 分間降水量は 6 月としては統計を開始してから最も多く、通年の極値においても、日降水量と日最大 1 時間降水量が最近 20 年間で第 3 位となり、日最大 10 分間降水量は 2009 年 1 月からの統計で第 1 位となりました。

上旬：梅雨前線の影響で雨の降る日が多くなりましたが、高気圧に覆われて晴れの日もありました。

中旬：期間の前半は、梅雨前線の影響で雨の降る日が多くなりましたが、期間の後半は、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。

下旬：梅雨前線の影響で雨の降る日が多くなりました。

特徴的な日

1 日から 3 日にかけて梅雨前線の影響で雨が降り、2 日は RVR が 550m まで、VIS が 300m まで悪化し、CIG が 200ft まで低下しました。

6 日から 7 日にかけては梅雨前線上の低気圧が西日本の南岸を東進した影響で雨が降り、6 日は VIS が 1400m まで悪化、CIG が 200ft まで低下し、7 日は CIG が 300ft まで低下しました。

8 日から 9 日にかけては梅雨前線上の低気圧が西日本を東進した影響で雨が降り、9 日は VIS が 900m まで悪化し、CIG が 300ft まで低下しました。

10 日から 12 日にかけては梅雨前線が西日本の南岸に停滞した影響で雨が降り、11 日は CIG が 400ft まで低下しました。

18 日は湿った空気の影響で VIS が 900m まで悪化しました。また、下層風の変化により、低層ウィンドシアアの通報が 1 件ありました。

21 日から 23 日にかけて梅雨前線の影響で雨が降り、22 日は VIS が 2100m まで悪化し、23 日は CIG が 100ft まで低下しました。

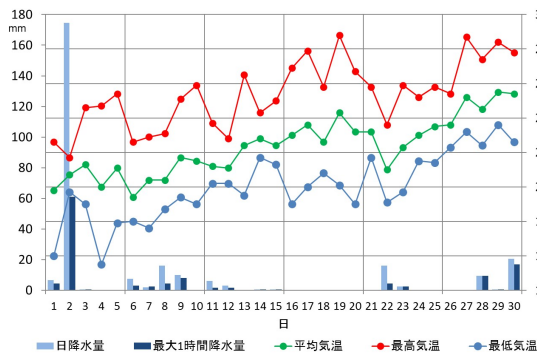
27 日は湿った空気の影響で VIS が 3000m まで悪化しました。

28 日は気圧の谷や上空の寒気の影響で雨が降り、VIS が 2000m まで悪化しました。また、大

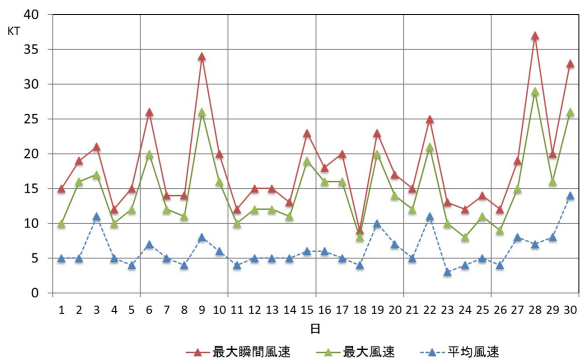
気の状態が不安定となったため雷を観測し、最大風速 29kt の西南西の風、最大瞬間風速 37kt の西南西の風を観測しました。

29 日から 30 日にかけて気圧の谷や湿った空気の影響で雨が降り、30 日は VIS が 1000m まで悪化しました。

《気温》月平均気温は22.3℃（平年22.8℃、6月の低い方から5位を更新）でした。日最高気温は、19日が最も高く28.8℃を観測しました。日最低気温は、4日が最も低く15.5℃（6月の最低気温の低いほうから7位を更新）を観測しました（第1図）。



第1図 2023年6月の日別気温・降水量



第2図 2023年6月の日別風速

《降水量》月降水量は276.0mm（平年148.4mm、6月の多い方から1位を更新）でした。日降水量の最大は2日に174.5mm（6月の多い方から1位、通年では3位を更新）を観測しました。1時間降水量の最大は2日に61.0mm（6月の多い方から1位、通年では3位を更新）を観測しました。10分間降水量の最大は2日に21.5mm（6月の多い方から1位、通年でも1位を更新）を観測しました（第1図）。

《風》日最大風速が15kt以上の日数が14日、そのうち20kt以上の日数が6日でした。日最大風速の最大は28日の西南西の風29kt、日最大瞬間風速の最大は28日の西南西の風37ktでした（第2図）。

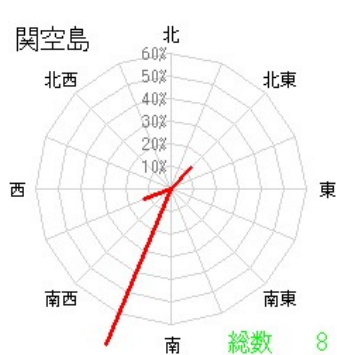
《風配図》10分間平均風向風速を1時間毎に風向及び風速別で集計し、各方位の頻度を表した図です。月全体では南西の風が多くなっています（第3図）。風速階級別では、5m/s以上（約10kt以上）は南南西、10m/s以上（約20kt以上）は南南西の風を多く観測しています（第4図）。



(0m/s 以上)
第3図 6月の風配図



(5m/s 以上)
第4図 6月の風速階級別風配図



(10m/s 以上)

〈極値・順位値の更新〉6月の極値と順位値の更新状況を第1表に、通年の極値と順位値の更新状況を第2表に示します。表において、橙色のセルが今月の順位値を更新した記録、桃色が通年の順位値を更新した記録です。

第1表 関空島の6月の極値

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
日降水量 (mm)	174.5 (2023/6/2)	108.5 (2012/6/21)	79 (2018/6/20)	71 (2017/6/21)	68.5 (2012/6/16)	64 (2013/6/20)	58 (2016/6/21)	56 (2004/6/21)	45.5 (2019/6/27)	45 (2019/6/7)
日最大10分間降水量 (mm)	21.5 (2023/6/2)	11 (2023/6/30)	10 (2012/6/16)	10 (2010/6/29)	9.5 (2019/6/30)	9.5 (2017/6/21)	9.5 (2017/6/1)	9.5 (2014/6/26)	9.5 (2011/6/21)	9 (2018/6/29)
日最大1時間降水量 (mm)	61 (2023/6/2)	40 (2017/6/21)	29.5 (2012/6/21)	29 (2016/6/21)	28 (2012/6/22)	27 (2004/6/21)	22 (2012/6/16)	18.5 (2014/6/26)	18.5 (2010/6/29)	17.5 (2009/6/24)
月降水量の多い方から (mm)	276 (2023/6)	276 (2012/6)	221 (2011/6)	205.5 (2016/6)	187.5 (2013/6)	187.5 (2010/6)	166 (2004/6)	155 (2006/6)	154 (2019/6)	153 (2017/6)
日最低気温の低い方から (℃)	14.8 (2009/6/1)	15 (2015/6/6)	15.1 (2017/6/13)	15.1 (2017/6/3)	15.1 (2015/6/5)	15.3 (2016/6/3)	15.5 (2023/6/4)	15.7 (2015/6/7)	15.8 (2022/6/8)	15.8 (2017/6/5)
月平均気温の低い方から (℃)	21.9 (2017/6)	22 (2012/6)	22.1 (2015/6)	22.1 (2008/6)	22.3 (2023/6)	22.4 (2021/6)	22.4 (2018/6)	22.7 (2016/6)	22.7 (2007/6)	22.7 (2003/6)

統計期間：2003年6月から。ただし日最大10分間降水量は2009年6月から。

第2表 関空島の通年の極値

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
日降水量 (mm)	230 (2017/10/22)	192 (2014/10/13)	174.5 (2023/6/2)	153 (2011/5/29)	151 (2004/10/20)	142.5 (2015/7/17)	132 (2021/8/17)	130 (2014/8/9)	127.5 (2018/7/6)	118 (2013/9/15)
日最大10分間降水量 (mm)	21.5 (2023/6/2)	17.5 (2013/7/6)	17 (2020/9/1)	16.5 (2012/7/7)	15.5 (2014/10/13)	15 (2010/7/13)	14.5 (2019/8/30)	14 (2022/4/29)	14 (2012/10/17)	14 (2009/7/19)
日最大1時間降水量 (mm)	79 (2014/10/13)	76 (2004/5/13)	61 (2023/6/2)	46 (2010/7/14)	41.5 (2021/9/18)	41 (2012/7/7)	41 (2003/10/13)	40.5 (2009/7/20)	40 (2017/6/21)	39 (2004/10/20)

統計期間：2003年1月から。ただし日最大10分間降水量は2009年1月から。

台風進路予報円及び暴風警戒域をより絞り込んで発表します

数値予報技術等の改善を踏まえ、本年6月26日以降に発生する台風に対する台風進路予報の予報円の大きさ及び暴風警戒域をこれまでよりも絞り込んで発表します。

気象庁は、台風の進路を予報する際には、予報の誤差を考慮して、台風の中心が70%の確率で入ると予想される範囲を円（予報円）で示しています。

近年、数値予報技術等の改善により台風進路予報の精度が向上していることを踏まえ、台風進路予報の予報円の大きさ及び暴風警戒域（※）を6月26日以降に発生する台風に対してこれまでよりも絞り込んで発表するよう改善します。

特に、3日先以降の予報円が大きく改善し、5日先の予報円の半径はこれまでと比べて最大40%小さくなります。

※ 台風の中心が予報円内に進んだ場合に風速25m/s以上の暴風となるおそれのある範囲

気象庁報道発表資料

台風進路予報円及び暴風警戒域をより絞り込んで発表します [PDF形式:288KB]

https://www.jma.go.jp/jma/press/2306/26b/20230626_typhoon_track_forecast_improvement.pdf

【台風の進路予報】

<https://www.jma.go.jp/jp/typh/>

梅雨前線及び台風第2号による大雨の状況について

気象庁では、大きな被害をもたらした気象事例や社会的な関心・影響が高い気象事例について、気象の状況を取りまとめた『災害をもたらした気象事例』として、ホームページで公表しています。

令和5年6月1日から3日にかけて、梅雨前線が本州付近に停滞し、前線に向かって台風第2号周辺の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、広い範囲で大きな被害が発生しました。

このことから、当時の大雨に関する資料を取りまとめ、『災害をもたらした気象事例』に掲載しました。

【梅雨前線及び台風第2号による大雨】

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2023/20230623/20230623.html>

—— 事務局からのお知らせ ——

＜関空島ウェザーレポートについて＞

「関空島ウェザーレポート」についてのご意見・ご要望は、担当（簗内）のメールアドレス yabuuchi@met.kishou.go.jp まで、メールにてお願いします。

発行日：2023年7月14日
発行元：関西航空地方気象台
編集：航空気象懇談会事務局

関空島 WEATHER REPORT で使用する航空気象に関する用語の解説

1 気象観測施設の配置とデータ利用について

気象観測施設は、関空島の A-RWY(3500m)と B-RWY(4000m) 周辺に配置した屋外観測装置と、当台気象観測室(航空庁舎ペントハウス)に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO 報として 10 分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報(METAR 報、SPECI 報)で配信する。

また、日本時間の 23 時 00 分～翌日 05 時 59 分の間は、全要素とも自動観測・自動判別結果を用いた METAR/SPECI 報(以下「自動 METAR/SPECI 報」という。)を通報する。自動 METAR/SPECI 報で通報する視程や雲、現在天気は目視観測とは異なる特性・特徴を持っている。

航空観測気象報で通報する風は「06L」の観測値である。障害等で「06L」が使用できない時は「06R、24R、24L」の順に代用して通報し、RMK に使用した風向風速計名を記載する。(例:WIND BY EQPT/06R)

2 本文中で使用する語句の定義等

VIS:全周を見渡して半分またはそれ以上の範囲で共通した視程(卓越視程)を(m)で表す。なお、自動通報時間帯については、RWY06L の滑走路視距離観測装置で自動観測した値である。

CIG:雲量が 5/8 以上の雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さを(ft)で表す。

RVR:滑走路視距離観測装置で観測した滑走路視距離を(m)で表す。

風:RWY06L に設置した観測装置の値(関西国際空港の代表風)を、風向を真方位(°)で風速を(kt)で表す。

風配図は、RWY 06L の、正時から 1 時間毎の 10 分間平均風を、月毎の風向別に百分率で表す。

Calm(静穏)は、10 分間平均風速の値が 0.4kt(0.2m/s)以下の場合をいう。

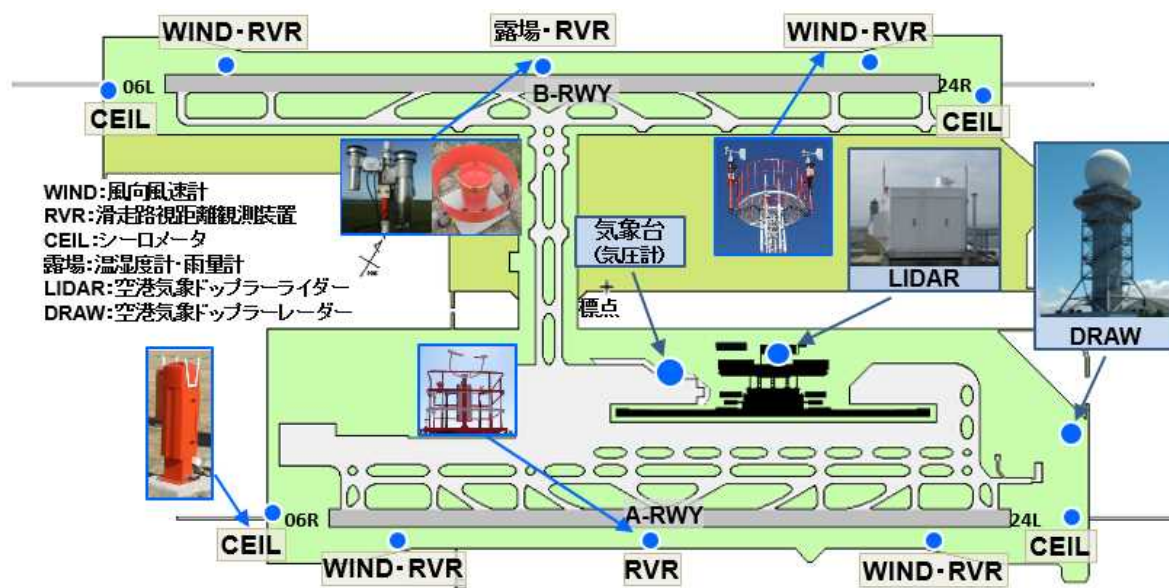
ガストは、平均風速を 10kt 以上上回る最大瞬間風速があった場合に報じられる。

ウィンドシアア:鉛直方向又は水平方向の風速や風向の差をいう。ウィンドシアアのうち、観測された高度が 1600ft 以下(もしくは 1600ft をまたぐ高度)の場合は低層ウィンドシアアとする。

平年値:アメダスの関空島地域気象観測所として算出した平年値を使用している。

関空島の統計期間は、2003-2020 年

(ただし、日最大 10 分間降水量及び日最大瞬間風速は 2009 年から)。



関空島内の気象観測機器配置状況